

◎特集1

昭和四十七年とは、 どんな年だったのか

オリンピック開催 ～飛躍する札幌

昭和四十七年は、札幌市にとって、大きな節目の年であり、今日の発展を考える上で、とても象徴的な年であったと言えます。

この年は、アジア初の冬季オリンピックの開催で幕を開けました。大会は二月三日か

ら十一日間にわたって行われ、市民の皆さんの協力により、大成功を収めました。

オリンピックの開催は、本市の街づくりを推進する役割も担いました。札幌での開催が決定した四十一年以後、つち音が絶えないほど、急速に都市基盤整備が進められたのです。四十六年になると、市役所新庁舎が落成したほか、

札幌オリンピックでは、70メートル級ジャンプで、金谷幸生選手が表彰台を独占。銀盤の妖精ジャネット・リンも大きな話題を集めた



地下鉄南北線が開通し、地下街が完成するなど、街の様相は大きく変わりました。昭和四十七年」という年を目指して、こうした変化の波が押し寄せていたのです。

政令指定都市移行 ～そして中央区誕生

大きく成長した本市は、オリンピックの余韻が漂う同年四月、政令指定都市へ移行し、北海道から大幅に権限を移譲されました。これは、単なる地域の中心都市から、より大きな視点に立つ日本の拠点都市の一つとなったことを意味しました。そして、同時に区制が施行され、中央区が誕生したのです。

市電の車庫跡地に建設された区役所がオープンし、当日は華やかな記念式典などが行われました。また、いろいろな手続きを一手で済ませることができるよう総合窓口システムや、市役所と区役所を結ぶテレメールファクスという電送装置を導入して準備万端のはずでしたが、不慣れのため



47年4月発行の広報さっぽろ中央区版。「用事は区役所へー中央区役所スタート」と題し、区役所の業務を紹介

もあつて窓口は大混雑。市民の皆さんからおしかりを受けるといふ場面もありました。

一方、当時の広報さっぽろには、区制施行に際して、「八人の市長さんに期待（当初は七区体制）」、「地域格差の解消を目指して」といった、市民の皆さんの声が寄せられており、区役所に対する期待の大きさも感じられます。

こうして、より市民に密着したサービスを目指し、地域の皆さんと手を携えながら、中央区は歩み始めたのです。



区役所開設当時の窓口風景

あの日、あの時

札幌市がオリンピックに沸き立ち、中央区が誕生したこの年、国内外では、どんなことがあったのでしょうか。

二月 元日本兵の横井庄一氏が帰国・浅間山荘事件

三月 奈良県飛鳥村の高松塚古墳で極彩色壁画発見

五月 アメリカによる沖縄統治が終わり、沖縄県発足

七月 田中角栄内閣成立

八月 ミュンヘン・オリンピック開催

九月 日中両首相が共同声明を発表。日中国交正常化

浅間山荘事件で、警察機動隊員にカップめんの差し入れ。これを機に一躍ヒット商品へ

老人問題を先取りした小説「恍惚の人」がベストセラーに

映画「ゴッドファーザー」がヒット

この年の流行語「恥ずかしながら」、「総括」、「日本列島改造」、「中三トリオ」など